



情報の内容と入手方法

市や国などから発表される正確な防災情報を、テレビ、ラジオ、並びにインターネットより収集し、避難の判断に役立てましょう。

佐賀県	佐賀県防災緊急マップ	災害時の避難所情報や浸水情報、ライブカメラ映像、通行止めを確認できます。	
国土交通省	川の防災情報	現在の雨量や川の水位、発表された洪水予報等を確認できます。	
気象庁	佐賀地方気象台	現在の気象状況や今後の気象予報、土砂災害の危険度、地震情報を確認できます。	
ライフライン	電気(九州電力送配電)	停電や落雷情報が確認できます。	
	電話(NTT 西日本)	災害後の安否確認として、災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板が利用できます。	
神崎市	神崎市公式ホームページ	市から発表される緊急情報や避難所開設、り災証明に関する情報が確認できます。	
	防災行政無線「屋外スピーカー」	災害時の避難指示や火災発生等の人命に危険を及ぼす情報を放送します。 放送が聞こえない場合は、 <b>「0952-51-1260」(有料)</b>	
	かんざきマップ(WEB版ハザードマップ)	市が指定する避難所の位置や洪水等の浸水想定区域、土砂災害警戒区域等が確認できます。	
	神崎市防災 WEB	市から発表される緊急情報や現在の雨量、川の水位、災害への備えが確認できます。	

**電話**

防災行政無線の放送内容を確認できます。  
☎0952-51-1260  
※通話料がかかります。

**神崎市公式SNS LINE(ライン)**

無料通話・メールアプリです。  
右のQRコードを読み取り  
友達登録を行って下さい!

**防災ネット あんあん**

佐賀県が運営する防災情報や防犯情報を配信しているアプリです。

△iPhoneの方 △Androidの方

**神崎市防災メール**

**「神崎市防災メール」登録方法**

右のQRコードよりアクセスし、案内に従い登録して下さい!

神崎市

(洪水・土砂災害危険箇所図、高潮危険箇所図及び防災情報)

ハザードマップ



令和元年8月の豪雨被害(神崎市)

(提供:内閣府)  
平成29年7月九州北部豪雨による福岡県朝倉市の土砂災害



このマップは、台風や洪水などの水害や土砂災害・地震などの災害時に、避難する場所や注意すべき箇所・情報をまとめたものです。  
「避難場所はどこか」「避難場所への経路はどう行けば安全か」などを確認し、いざという時に落ち着いて行動ができるようこのマップを参考に家族や地域で話し合ってみてください。

神崎市役所

〒842-8601 佐賀県神崎市神崎町鶴3542-1  
TEL: 0952-52-1111 (代表) FAX: 0952-52-1120



# 日頃の備え(自助)



災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざという時にあわてず行動できるよう、家族で普段から話し合しましょう。  
災害時は「自分の命は自分で守る」(自助)という意識がとても重要です。

## 避難場所を確認

- 災害時には自宅に一番近い避難場所が使えない事態も考えられます。**近い避難場所を2箇所以上**確認しておきましょう。
- 自宅から避難場所まで実際に歩いてみて、**危険想定箇所**を避け災害時に通行できない場合など想定し、避難経路を確認しておきましょう。



## 持ち出し品を確認

- 避難時の持ち出し品は、日頃から準備しておき、**置き場所**を決めておきましょう。
- 非常食や飲料水などは、定期的に新しいものと取替えましょう。



## 家族で防災会議

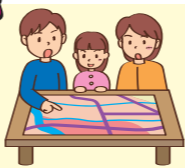
### 話し合う項目

- 自宅周辺の危険箇所の確認
- 避難場所と避難経路の確認
- 災害が起こった時の身の守り方(家の中ではどこが一番安全か)
- 非常用持ち出し品
- 家族間の連絡方法と、最終的に落ち合う場所



### 自宅の状況を確認

- 自宅や学校・職場が**注意を要する箇所**に入っていないか、自宅に**危険な箇所**がないか確認しましょう。
- 家族でそれぞれの役割や集合場所・連絡方法など**避難時の行動**を話し合しましょう。



### 災害情報を確認

- 普段からテレビやラジオ、インターネットで、**気象状況**や**災害情報**を確認しましょう。
- 市からの情報に注意し、近所の方々と情報交換しましょう。



# 助け合いのこころ(共助)



災害が発生したとき、助け合いのこころはとても大切です。自分の力だけで避難ができない人や逃げ遅れた人を見かけたら、みんなで協力して避難しましょう。

## 高齢者や傷病者

- 複数の人で対応します。
- 緊急のときは、おぶつて避難します。



## 外国人

- 身振り手ぶりで話しかけ、孤立させないようにしましょう。



## 車いすを利用している人

- 階段では2人以上で援助しましょう。上りは前向き、下りは後ろ向きで移動します。
- 救援者が1人の場合はおんぶひもなどを利用し、おぶつて避難しましょう。



## 耳が不自由な人

- 口を大きく動かし、はっきりと話しましょう。
- 身振りや筆談などで、正確な情報を伝えましょう。



## 目の不自由な人

- つえを持つ手と反対側のひじあたりに軽く触れるか、腕や肩をかって半歩くらい前をゆっくり進みましよう。
- 階段などの障害物を説明しながら進みましょう。



# 自主防災組織

大規模な災害が発生した場合、行政機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。このような時、**地域の皆さんと一緒に協力し**、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで**被害の軽減を図る**ことができます。また、活動を迅速に進めるためには、「**お互いに顔の見える関係**」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。そのためにも**事前の準備(=体制づくり)**が重要であり、地域内に自主防災組織を結成されているところもあります。

## 平常時の活動

- 防災意識の啓発** 防災マップの作成・配布、防災講習会・地域のお祭りなどでの防災イベントの実施など。
- 防災巡視・防災点検** 各家庭の防災用品の点検、防災倉庫の備品や消防水利の確認、燃えやすいものの放置状況、ブロック塀や石垣、看板、自動販売機など、倒れやすいものの点検など。
- 防災資機材の管理** ヘルメット、消火器、担架、ハンマー、バール、大型ジャッキなどの作業道具、非常食、救急医薬品等の防災資機材や備蓄品の管理など。
- 防災訓練の実施** 避難所開設・運営訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、情報収集・伝達訓練、給食(炊き出し)訓練の実施など。
- 要配慮者対応** 要配慮者の把握・見守り、担当者の確認など。

## 自主防災組織の活動例

## 災害時の活動

- 避難所の開設・運営への協力**
  - **避難所の開設** 避難所施設の状況確認、避難者誘導・受け入れ体制整備など。
  - **避難誘導** 近隣住民等の安否確認、避難所への誘導、要配慮者の安否確認・援助など。
  - **食料・物資関係** 備蓄食料や救援物資等の避難所への運搬および配布、炊き出しなど。
  - **衛生管理** 避難所施設内の清掃やゴミの集積所の設置など。
- 情報の収集・伝達** 災害情報を収集し、住民に伝達するなど。
- 初期消火活動** 消火栓、消火器を使用した初期消火活動など。
- 救助救護活動** 負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人の救出・救助、応急手当て、救護所等への搬送など。

# 警戒レベルごとの避難情報・防災気象情報



避難情報や防災気象情報などを確認しましょう。市から発令する避難情報や気象庁等から提供される防災気象情報などは次のとおりです。警戒レベルに応じて適切な避難行動をとってください。

警戒レベル	市からの避難情報など	とるべき行動	防災気象情報	
大	警戒レベル 5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保!	特別警戒情報、土砂災害警戒情報、警戒など
	警戒レベル 4	避難指示	危険な場所から全員避難	
	警戒レベル 3	高齢者等避難	・高齢者等(避難行動に時間を要する方)は避難行動をとる。 ・その他の者は避難行動の準備をする。	
危険度	警戒レベル 2		避難に備え自らの避難行動を確認する。 ・ハザードマップ等により災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミングなどを再確認。 ・避難情報の把握手段の確認。	注意情報
	警戒レベル 1		災害への心構えを高める。 ・防災気象情報等の最新情報に注意	早期情報

## ※命を守る行動とは

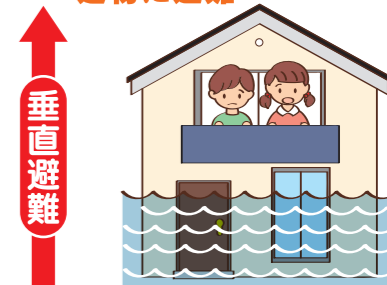
開設されている避難所への避難がかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、「近隣の安全な場所」への避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、「屋内安全確保(建物のより安全な部屋等への移動)」を行う。

# 屋内安全確保



以下の「3つの条件」が確認できれば、  
浸水の危険がある地域でも自宅にとどまり  
安全を確保することも可能です

## ●家の2階など高い場所や建物に避難



### 条件①

家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない  
入っているとこんなおそれがある...



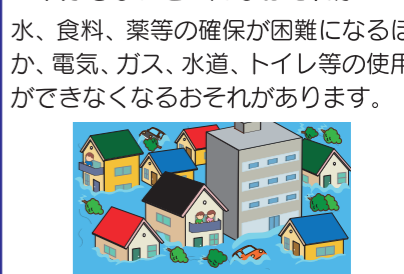
### 条件②

浸水深より居室は高い  
階ごとの浸水程度の目安は...



### 条件③

水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分  
十分でないとこんなおそれがある...







## 洪水の基礎知識

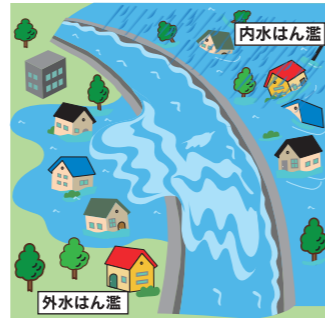
強い雨が広範囲に、長時間続く時に、洪水災害が発生する危険性が高まります。発生のメカニズムを知り、堤防決壊の前兆に注意しましょう！

### 洪水とは

洪水とは雨や雪解けによって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。

河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんが、それがふだんの姿です。ところが川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。

さらに、河川などから雨などによって、街や農地などに水があふれることをはん濫といい、はん濫には「内水はん濫」と「外水はん濫」の2種類があります。



### 「内水はん濫」「外水はん濫」とは

#### ●内水はん濫

通常、雨水は水路などを通して川に排水されるが、ゲリラ豪雨など水路の排水能力を超える雨が降った時に川へ流れず水路からあふれて起こる洪水です。



#### ●外水はん濫

大雨により、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれて起こる洪水です。外水はん濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要です。



下記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうなとき
- 水が激流となって、堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき

## 河川水位による判断



河川名 [量水標]	はん濫注意水位[m]	避難判断水位[m]	はん濫危険水位[m]
	河川のはん濫の発生を注意する水位	避難準備情報などの避難情報が発表される目安となる水位	河川がはん濫する恐れのある水位や安全に避難するために避難を開始すべき水位
筑後川 [瀬ノ下]	5.00	6.80	7.10
城原川 [日出来橋]	2.50	3.50	4.32
田手川 [広円橋]	2.60	4.80	5.20

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。

発生の予測は比較的困難で、中小河川のはん濫、土砂崩れ、がけくずれなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

### 雨量の目安 [雨量(mm/時間)]

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意して、危険と判断した場合は、警報や避難情報が出る前でも、早めの避難準備や避難を心がけましょう！

<p>10以上~20未満 やや強い雨</p> <p>ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。</p>	<p>20以上~30未満 強い雨</p> <p>どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。</p>	<p>30以上~50未満 激しい雨</p> <p>バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。</p>	<p>50以上~80未満 非常に激しい雨</p> <p>滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。</p>	<p>80以上 猛烈な雨</p> <p>息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。</p>
---	--	--	---	--

## 土砂災害の基礎知識

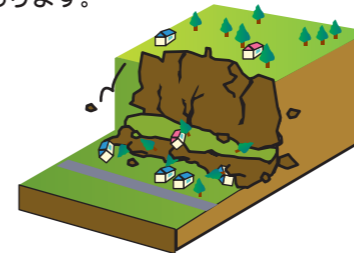


### 土砂災害の種類

土石流は流れるスピードが速いため、土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。

#### 急傾斜地崩壊(がけ崩れ)

がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。



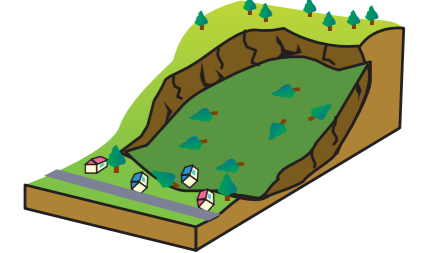
#### 土石流

土石流は、谷筋で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合って流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。



#### 地すべり

地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、発生すると広い範囲に被害をもたらします。



下記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう

- 斜面にひび割れ・膨らみ等の変形がある
- 木立が不ぞろいになる
- 斜面から水が湧き出ている
- 斜面から石ころが落ちる
- 変な土のおいがする
- 沢の水が濁ったり、水量が急に減る
- 井戸の水が濁る
- 山鳴りがする

# 台風等の基礎知識



台風とは強い風や雨の両方あるいはどちらかを伴った最大風速が約17m/秒を超えて風が吹く熱帯低気圧のことです。一般に台風の勢力は「大きさ(風速15m/秒以上の半径)」と「強さ(最大風速)」で表されています。

台風の大きさや強さ

大きな	<b>「大型台風」または「大きい台風」</b> 風速15m/秒以上の半径が500km以上 ～800km未満
	<b>「超大型台風」または「非常に大きい台風」</b> 風速15m/秒以上の半径が800km以上
強い	<b>「強い台風」</b> 最大風速33m/秒以上～44m/秒未満
	<b>「非常に強い台風」</b> 最大風速44m/秒以上～54m/秒未満
	<b>「猛烈な台風」</b> 最大風速54m/秒以上

## ■風速と被害

平均風速(m/秒)	人への影響・屋外の様子
10以上～15未満 [やや強い風]	風に向かって歩きにくくなる。樹木全体が揺れる。電線が鳴る。
15以上～20未満 [強い風]	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。小枝が折れる。
20以上～25未満 [非常に強い風]	しっかりと身体を確保しないと転倒する。鋼製シャッターが壊れ始める。
25以上～30未満 [非常に強い風]	立ってはいられない。屋外での行動は危険。ブロック塀が壊れ、樹木が根こそぎ倒れ始める。
30以上 [猛烈な風]	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

## 落雷から身を守る

落雷から身を守るには、正しい知識を身につけ速やかに安全な場所へ避難することが有効です。また、雷鳴が聞こえている間はもちろん、聞こえなくなっても30分間は避難場所に留まりましょう。

### 1. 雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる人は安全な場所に避難しましょう。  
※光って音が鳴るまで1秒なら落雷地点から340m離れています。

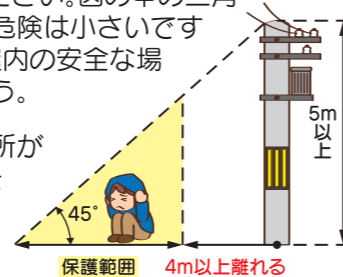
### 3. 建物の中や自動車へ避難

- 建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。

**危険** 雨宿りで木の下に入るのは大変危険です

### 2. 電柱や木から4m以上離れる

- 側撃雷の恐れがあるので、電柱や木から4m以上離れてください。図の中の三角の範囲内は比較的危険は小さいですが、なるべく早く屋内の安全な場所に避難しましょう。
- 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

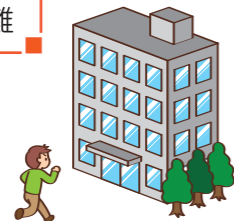


## 竜巻から身を守る

竜巻は、発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生する渦巻き状の激しい突風です。短時間で、狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらすことがあります。いざという時には迅速に行動しましょう。

### 1. 頑丈な建物の中へ避難

- 避難する時は屋根瓦などの飛来物に注意する。
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせる。



**危険** 車庫・物置・プレハブへの避難は危険です

### 2. 屋内でも窓や壁から離れる

- 窓、雨戸を閉め、カーテンも閉める。
- 家の中心部に近い、一階の窓のない部屋に移動する。
- 浴槽や丈夫な机の下に入り、両腕で頭と首を守る。



# 地震時の行動



## 地震が発生したら

地震はいつ起こるか分かりません。地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要です。

### 地震発生!

揺れが収まってから行動する

家屋倒壊などのおそれがある場合、土砂災害の危険が予想される地域は、**すぐ避難**

### 身の安全を守る

・揺れを感じたら、テーブルや机の下に身を隠し、布団や座布団で頭を保護する。

### 非常脱出口の確保

・周囲の状況をよく確かめて、慌てて外へ飛び出すことなく落ち着いて行動する。

### すばやく火の始末をする

・揺れが激しい場合は、揺れが収まってから火の始末をする。

### 地震後の行動

余震には十分気をつけて行動しましょう

### 火元を確認

・出火がある場合は、落ち着いて初期消火する。  
・脱出口へ背を向けて消火活動を行う。

### 揺れが収まっても油断しない

・改めて家族や同居人の安全を確認する。ラジオ・テレビ等で正しい情報入手する。

### 避難する時は慌てずに

・家から離れるときは、外出中の家族に行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。  
・必ず徒歩で避難する。  
・服装は活動しやすいものにし、携帯品は必要品のみにして背負うようにする。

### 家を出る前に確認を

・ガスの元栓や、電気ブレーカーを切る。  
・(停電復旧に伴う通電火災防止のため)家を離れる際は戸締りをする。

## 外出中に地震にあったら

さまざまな状況に応じて、あわてずに身の安全を確保しましょう。

### 街頭や住宅地

・鞆などで頭を保護し、近くの空き地、丈夫な建物の中や街路樹の下に避難する。  
(窓ガラスや看板等が落ちてくる危険があります。)  
・ブロック塀・門扉・自動販売機・建設現場に近づかない。

### 車の運転中

・ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車させてエンジンを切る。  
・急ブレーキは絶対に踏まない。  
・避難するときはロックせずに、キーをつけたままにする。(車検証や貴重品は持ち出すこと。)  
(緊急時に車を移動させる事があるため)

### 店舗の中

・カバンや買い物カゴなどで頭を保護し、陳列ケースや陳列棚から離れ、柱や壁際に避難する。係員の指示に従って行動する。

### 電車やバスの中

・将棋倒しや網棚からの落下物に注意し、つり革や手すりにしっかりとつかまる。  
・乗務員の指示に従って落ち着いて行動する。

### オフィス街や繁華街

・ガラスや看板、ネオンサインなどの落下物に注意する。  
・その場に立ち止まらず、手荷物で頭を守りながら広い場所に逃げる。  
・建物や電柱からも離れる。自動販売機も倒れてくる可能性があるため注意する。



# 自宅での備えチェックリスト



事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 屋内の安全対策

### □屋内に逃げ場としての安全な空間をつくろう

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置こう。  
無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えをしよう。



### □寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもや、お年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

### □安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざという時に、出入口をふさいでしまうことも。

### □家具の転倒の防止など安全対策をしておこう

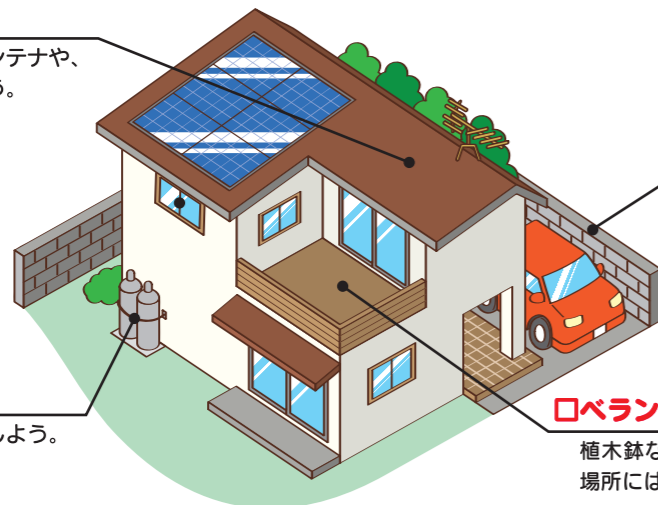
家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定しよう。また、金具や固定器具を使っでの転倒防止対策や窓ガラス飛散防止対策も万全にしよう。

<h4>□タンス・本棚</h4> <p>L字金具や支え棒などで固定しよう。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておこう。</p>	<h4>□食器棚</h4> <p>L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふしんなどを敷こう。重い食器は下の方に置こう。扉が開かないように止め金具をつけよう。</p>	<h4>□照明</h4> <p>チェーンと金具を使って数カ所止めよう。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めよう。</p>
<h4>□冷蔵庫</h4> <p>扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定しよう。</p>	<h4>□テレビ</h4> <p>できるだけ低い位置に固定しよう。</p>	<h4>□窓ガラス</h4> <p>屋内に割れたガラスが飛散しないように飛散防止フィルムを貼ろう。</p>

## 屋外の安全対策

### □屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しよう。



### □ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強しよう。ひび割れや鉄筋のさびも修理しよう。

### □プロパンガス

ボンベを鎖で固定しよう。

### □ベランダ

植木鉢などの整理整頓をしよう。落ちる危険がある場所には何も置かない。

# 減災グッズ準備チェックリスト



## ①いつも携帯



「②非常持ち出し品」から携帯ができそうなものは普段使うバックやポケットに入れて身につけよう。

## ②非常持ち出し品



1日の多くを過ごす場所に非常持ち出し品を1つのバックに入れて備えよう。男性 15kg、女性 10kg が目安

## ③備蓄



支援が届くまでの最低3日間、できれば1週間は誰にも頼らず暮らせるように備えよう。

### 食料品

- 飲料水
- 1人1日3ℓが目安。
- 携帯食
- 非常食
- 乾パン・缶詰・ビスケット・チョコレートなど。
- ※赤ちゃんのいる家庭は、粉ミルク・液体ミルク・ほ乳びんなども。

### 救急用品

- 消毒薬
- 脱脂綿・ガーゼ
- ばんそうこう
- 包帯等
- 三角巾
- 常備薬・持病薬等

### 衛生

- マスク・消毒液
- 感染症予防に努めましょう。
- 簡易トイレ
- 非常時があると便利。
- トイレットペーパー・ティッシュペーパー
- トイレットペーパーは汎用性が高い。
- ウェットティッシュ
- 水がないときに役立つ。

## こんな用意も必要です

### 女性用品

- 生理用品
- 化粧品
- 鏡・ブラシ等

### 赤ちゃん用品

- 母子手帳
- 粉ミルク・哺乳瓶・離乳食
- 洗浄綿・バスタオル
- 紙おむつ

### 高齢者・障害者用品

- 介護用品
- めがね・入れ歯
- 持病薬・補装具
- 紙おむつ





おちついて早めに行動し、決められた場所へ避難しましょう。

## 最新の情報に注意

- テレビ、ラジオなどで**最新の避難情報、防災気象情報**を確認しましょう。



- 災害対策本部や関係機関からの情報などにも注意しましょう。

## 状況の変化に注意

- 不安を感じたら**早めに避難**しましょう。
- 特に、高齢者・子ども・障がいのある方がお住まいの世帯では、**早めの避難**が必要です。
- 避難するときは、1人で行動せずに、近所の人達と声を掛け合い**一緒に避難**しましょう。



## 家の戸締まりに注意

- 避難の際は**ブレーカー**を落とし、**ガスの元栓**を締めるなど**火の始末と戸締り**を行いましょ。

※ 状況によっては、電気が復旧した時、破損や倒れた電気器具から出火したり、断線した電気コードがショートするなどが原因で火災が発生する場合があります。自宅などを離れる際は、必ずブレーカーを落とすとともに、コンセントも抜いておきましょう。



## 身の回りの安全に注意

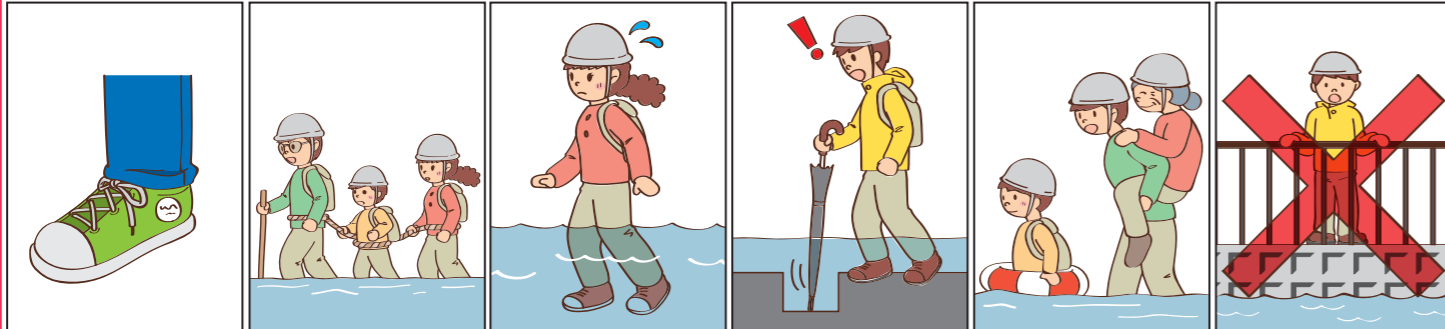
- **車は使わず、徒歩**で避難しましょう。
- 狭い道、塀際、川べり、崖など**危険な場所**を避けましょ。
- 避難時の荷物はリュックなどに入れ、できるだけ**両手が空く**ようにします。



- できるだけ**明るいうちに避難**し、高齢者や障がい者、乳幼児がいる場合には**みんなで協力**して避難しましょう。



## 避難する時の6つのポイント



### 1. はき物

裸足や長靴は禁物。ひもで締められる運動靴がよい。

### 2. ロープで体を結ぶ

はぐれないようお互いの体をロープで結ぶ。特に子どもから目を離さない様にする。

### 3. 歩ける深さ

水深が50cmを上回る場合は危険。流れが速いと20cm程度でも歩けないこともある。転落の恐れがある場所は、10cm程度でも危険。

### 4. 足元に注意

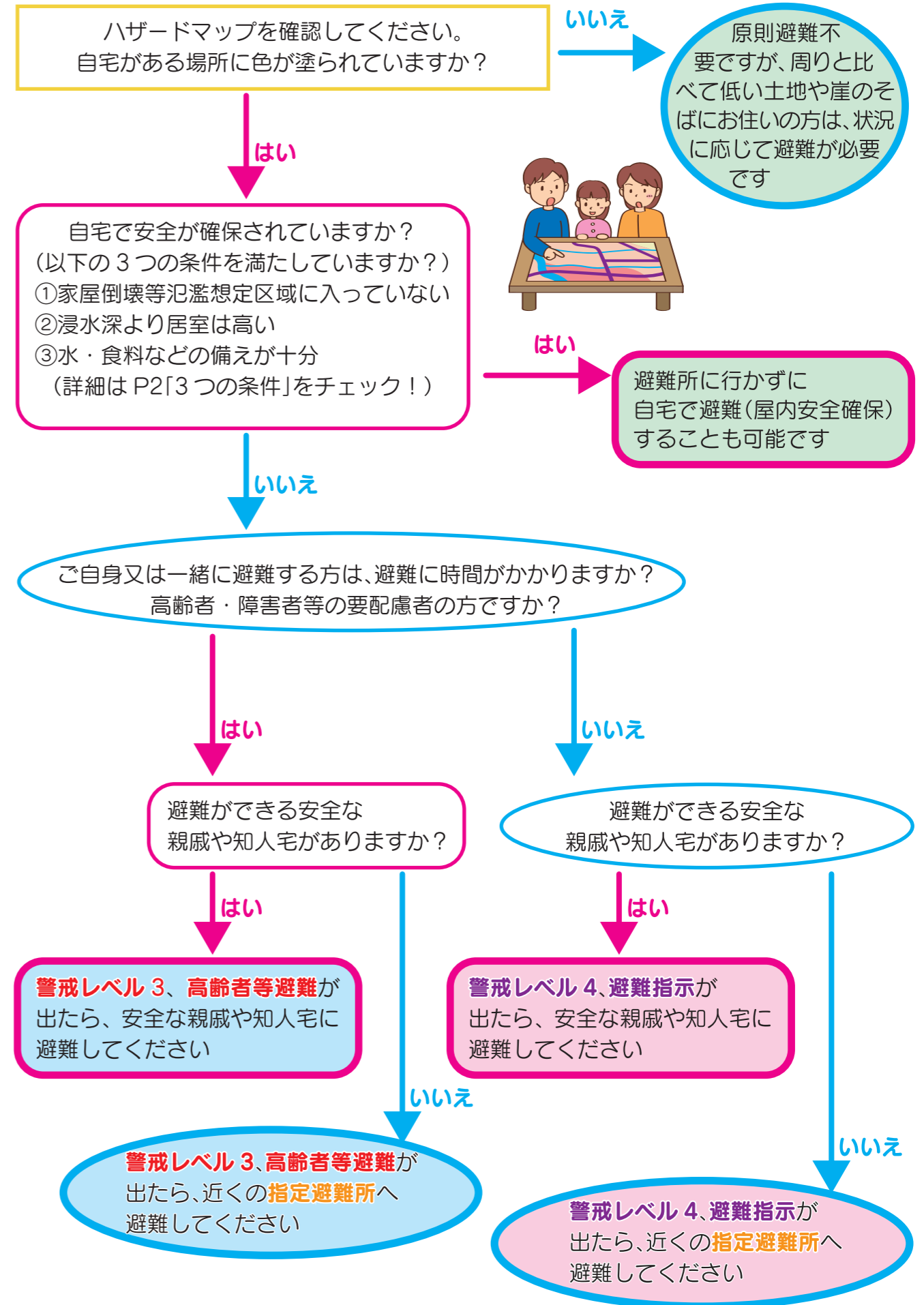
水面下にはマンホール、側溝などの危険がひそんでいます。探り棒(カサ等)を使用して、安全を確認しながら歩く。

### 5. 子どもや高齢者を安全に

高齢者や歩行が困難な方などは背負う。幼児は浮き輪、乳児はベビーバスなどを利用して安全を確保する。

### 6. 危険な場所はさける

田んぼや河川の近くは通らない。







マイ・タイムラインとは、いざというときに慌てることのないよう、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。どの段階でどの行動をとるのか考えましょう。



## マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

### かんざきマップハザードマップでチェック

●あなたの住んでいる場所の浸水深は？

5.0m 以上～	3.0m ～ 5.0m 未満	0.5m ～ 3.0m 未満	0.5m 未満
----------	----------------	----------------	---------

●あなたの住んでいる場所は  
家屋倒壊氾濫想定区域(氾濫流)ですか？

はい いいえ

WEB版ハザードマップは  
ここからチェック！

かんざきマップ →

※「ご利用上の注意」を確認ください。  
利用規約に同意するとマップをご覧になれます。

### 家庭の状況チェック

- 車 無 有( )台
- ペット 無 有( )
- 持病薬 無 有( )
- 避難に支援が必要な人(高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など)  
無 有( )

### 避難先のチェック

- あなたが避難する場所
- ハザードマップに記載されている避難所  
(移動手段: 移動時間: 約 分))
- 親戚・知人の家  
(移動手段: 移動時間: 約 分))
- その他(近くの浸水しない場所)  
(移動手段: 移動時間: 約 分))
- あなたが避難する場所までのルート考えたことはありますか？
- はい いいえ
- 



「台風や前線が発生」してから「川の水がはん濫」するまでのそなえをいつから行動するか書いてみよう!

出典：国土交通省「逃げキッド マイ・タイムライン検討ツール」を加工・編集し作成

そなえまでの おおよその 時間	行政から発信される情報 黒：防災・気象情報 青：河川洪水予報 緑：避難情報(神崎市)	地区 「台風や前線が発生」 してから「川の水が はん濫」するまで	家 マイ・タイムライン 主なそなえ オリジナルの行動も 書き足そう!	作成年月 年 月	そなえの(例)
災害前	5～3 日前	●台風予報 ●早期注意情報 (警戒級の可能性) (警戒レベル1)	「台風や前線が発生」 してから「川の水が はん濫」するまで 警戒レベル1 自分がいるところで 降ってなくても、 上流で雨が降れば 川の水は増えてくるよ。		●買い物は、雨風が強くなる 前にすませておこう。
	2日前	◇大雨注意報、 洪水注意報 (警戒レベル2) ●台風に関する 今後の見通し	台風や前線が 近づいて、雨や風が だんだん強くなる 警戒レベル2 雨や風が強くなると お出かけは大変!		●今後の台風や前線の 動きを調べ始める ●1週間分の薬を病院に受け取りに行く ●避難する時に持っていく物を準備する ●家の周りに風で飛ばされる ようなものはないか確認 ●テレビ、インターネット、メール 等で 雨や川の様子に注意 ●家族と連絡を取りあう
	1日前				
	半日前	■水防団待機水位到達 ■はん濫注意水位到達 →はん濫注意情報発表	雨が集まって、川の だんだん増える 激しい雨で、川の水が どんどん増えて、 河川敷にも水が流れる		●住んでいる所と上流の雨量を調べ始める ●ハザードマップで避難場所、 避難手段を確認 ●隣町の親戚の家に家族みんなで 避難することを電話 ●川の水位を調べ始める ●通行止め情報がないかインターネットで確認 ●携帯電話の充電 ●避難しやすい服装に 着替える ●市内の高台への 避難の開始を判断
災害時	5時間前	■避難判断水位到達 →はん濫警戒情報発表 →高齢者等避難 (警戒レベル3)を発令	川の水がいっぱい あふれそう 警戒レベル3相当		●川の水位をインターネットで確認 ●安全な場所へ移動を始める
	3時間前	■はん濫危険水位到達 →はん濫危険情報発表 →避難指示 (警戒レベル4)を発令 →緊急安全確保 (警戒レベル5)を発令	川の水があふれる前に、 安全なところへ逃げなさい! 警戒レベル4相当		●川の水位をインターネット で確認 ●市内の高台への避難を完了 ●携帯メールで緊急速報メール を受信
災害後	0時間	■はん濫が発生 →はん濫発生情報発表	川の水がはん濫 警戒レベル5相当 川の水が一気に広がって、街じゅうが 水びたし。 こうなると動けないぞ!		●テレビで洪水予報の確認 ●携帯メールで緊急速報メールを受信

気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間は、イメージで記載しています。  
避難指示等のタイミングは状況によって異なります。市の発信情報に注意をしてください。

### マイ・タイムライン使用時の注意点

- 1 あくまでも行動の目安として認識する。
- 2 気象警報や避難情報等をこまめに収集・確認する。
- 3 収集・確認した情報をもとに、マイ・タイムラインを参考にして、臨機応変に防災行動の実行を判断する。

洪水は自然現象であり、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではなく、  
マイ・タイムラインで想定したとおりに進行するとは限りません。



# 指定避難所一覧



番号	名称	所在地	地盤高(m)	浸水深(m)	風水害	土砂	地震
1	かみざましちゆうおうこうみんかん 神崎市中央公民館	神崎町鶴3388-5	7.15	2.57	△	○	○
2	かみざましちよだごりゆう せんたー 神崎市千代田交流センター	千代田町直鳥166-1	5.30	2.52	△	—	○
3	かみざましせふりこうりゆうせんたー 神崎市脊振交流センター	脊振町広滝555-1	276.47	5.03	△	△	○
4	かみざましちゆうおうこうえんたいいくかん 神崎中央公園体育館	神崎町鶴3886	7.65	2.18	△	○	○
5	かみざましちゆうがっこう 神崎中学校	神崎町鶴3565	7.07	2.03	△	○	○
6	かみざまししょうがっこう 神崎小学校	神崎町枝ヶ里349	5.37	1.85	△	○	○
7	さいごうしょうがっこう 西郷小学校	神崎町横武868	4.46	0.65	△	○	○
8	にいやましょうがっこう 仁比山小学校	神崎町鶴1634	12.57	1.85	△	○	○
9	ちよだちゆうがっこう 千代田中学校	千代田町直鳥929-1	3.84	1.58	△	—	○
10	ちよだとうぶしょうがっこう 千代田東部小学校	千代田町渡瀬1964	3.94	2.67	△	—	○
11	ちよだちゆうがっこう 千代田中部小学校	千代田町直鳥15-1	3.90	2.59	△	—	○
12	ちよだせいぶしょうがっこう 千代田西部小学校	千代田町餘江1496	3.79	1.21	△	—	○
13	せふりきんろうしゃたいいくかん 脊振勤労者体育館	脊振町広滝592-2	—	—	○	△	○
14	せふりしょうがっこう 脊振小学校	脊振町広滝580	—	—	○	△	○
15	かみざまほけんせんたー 神崎町保健センター	神崎町鶴3456-5	7.04	2.51	△	○	○
16	かみざましびーあんごりかいほうせんたー 神崎市B&G海洋センター	神崎町尾崎4390-2	—	—	○	○	×
17	かみざまきんろうしゃたいいくかん 神崎勤労者体育館	神崎町神崎454-3	7.00	2.06	×	○	○
18	かみざまこうとうがっこう 神崎高等学校	神崎町本告牟田3076-2	5.58	0.11	△	○	○
19	かみざませいめいこうとうがっこう 神崎清明高等学校	神崎町横武2	4.44	0.80	△	○	○
20	とよたほうしよくきゆうしゅうかふしきがいしゃたいいくかん トヨタ紡織九州(株)体育館	神崎町鶴1600	—	—	○	—	○
21	ちよだちゆうほけんせんたー 千代田町保健センター	千代田町直鳥57-1	4.41	2.00	△	—	○
22	ちよだふんかいかん 千代田文化会館(はんぎーホール)	千代田町直鳥57-1	4.41	0.83	△	—	○
23	じろうたいいくかん 次郎体育館	千代田町直鳥166-2	4.33	2.02	×	—	○
24	くほやましょうぼうつめしよ 久保山消防詰所	脊振町服巻911-1	—	—	○	×	○
25	とばいんさんそう 鳥羽院山荘	脊振町鹿路3496-1	—	—	○	×	×
26	くらたにひなんしよ 倉谷避難所	脊振町広滝3445-53	—	—	○	○	○
27	せふりちゆうがっこう 脊振中学校	脊振町広滝594-1	—	—	○	×	○
28	ひのさと ひのさと	脊振町鹿路3017-3	—	—	○	○	○

※ ◆ は、早期避難所です。災害が発生する前でも「自主避難」ができる施設です。  
 ● は、指定緊急避難場所です。災害が発生しそうな場合や発生した場合において避難し、「身の安全を確保する」ことができる施設です。  
 ○ は、指定避難所です。災害が発生し、被災者が「一定期間滞在」することができる施設です。  
 ※ 地盤高、浸水深は、避難所周辺の値です。地盤高(標高)とは、東京湾の平均海面(0mとする)からの高さです。

# ペットの同行避難



ペットに関する防災の基本は、飼い主が責任を持って対応することです。避難する場合は同行避難が原則です。避難する空間はそれぞれ別の場所になります。ペットが避難所での生活に困らないよう、普段から準備をしておくことが重要です。ペットの受け入れができる避難所は、「神崎市中央公民館、千代田交流センター、神崎市中央公園体育館」です。(令和6年現在)

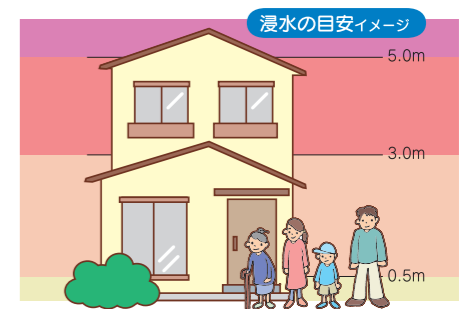
- 日頃からケージに慣らしておき、同行避難の際にはケージを持参する
- 狂犬病予防注射を済ませておく ● ペットフード、医薬品、飼育用品を準備しておく
- 首輪に連絡先を書いた迷子札を装着する
- ノミの駆除やブラッシングで清潔に保ち、健康状態に注意する

# ハザードマップの見方と使い方



## 洪水浸水想定区域図および高潮浸水想定区域図について

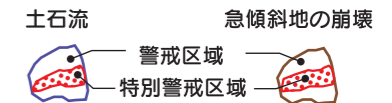
想定浸水水深	
浸水した場合に想定される水深(ランク別)	
5.0m以上～	5.0m
3.0m以上～ 5.0m未満	3.0m
0.5m以上～ 3.0m未満	0.5m
0.5m未満	0.5m



## 土砂災害警戒区域等および家屋倒壊等氾濫想定区域について

土砂災害警戒区域および特別警戒区域	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)
家屋倒壊等氾濫想定区域	
	氾濫流
	河岸浸食

- 土砂災害警戒区域、特別警戒区域  
**土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)**  
 土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、土砂災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域
- 土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)  
 土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域



- 家屋倒壊等氾濫想定区域  
 標準的な木造家屋の倒壊・流出をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸浸食が発生することが想定される区域です。神崎市では、家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流、河岸浸食)について、生命・身体に直接影響を及ぼす可能性がある区域である「早期の立退き避難が必要な区域」として設定しています。



## 立退き避難が必要な区域

避難行動のタイミングは、個々人の置かれた状況によりそれぞれ異なることに注意してください。高齢者や障害のある方など避難に時間を要する方は早めの避難行動を心がけてください。

- 土砂災害警戒区域および特別警戒区域  
 次のような前兆現象を察知した場合は、直ちに避難が必要です。  
 ・ 土石流  
 山鳴りがする。雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。  
 ・ 急傾斜地の崩壊  
 がけに割れ目が見える。がけから水が湧き出ている。がけから小石がバラバラ落ちてくる。
- 早期の立退き避難が必要な区域  
 ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)  
 堤防決壊に伴う氾濫流で木造家屋が倒壊するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要です。  
 ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)  
 河岸浸食で家屋が倒壊するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要です。
- 洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域  
 床上浸水又は床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいですが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断による屋内安全確保も可能です。

## マップの凡例

凡例	
◆	早期避難所
●	指定緊急避難場所
○	指定避難所
●	要配慮者利用施設
●	消防団・消防車格納庫
○	市役所
⊗	警察署
⊗	消防署
⊗	水位観測所
📷	CCTV・カメラ
🌧	雨量観測所
🏠	水防倉庫
✂	アンダーパス
----	市町界
—	高速道路
—	国道
—	主要地方道・県道
—	主要市道
🌳	主要公園等